

検証報告書の構成

1. はじめに 【1頁】

新型コロナウイルス感染症への対応の概要、検証の趣旨・目的を記載

2. 新型コロナウイルス感染症への対応の主な動き 【3～7頁】

国や関西広域連合における主な動きを、感染の波（第1波～8波）ごとに時系列で整理

3. 関西広域連合のこれまでの取組 【9～26頁】

関西広域連合の取組を以下の4分類で記載

(1) 実施体制

- 対策準備室・対策本部の設置

(2) 情報の共有・発信

- 対策本部会議の開催(対応方針の共有、統一メッセージの発信)
- 国への要望・提案

(3) 広域での連携・応援

- 広域的な医療連携(医療人材・資器材、検査、患者受入の広域連携)
- 関西の経済団体との連携(寄付金、物資提供、増産・流通拡大依頼)

(4) その他(啓発資材の作成等)

4. 取組の検証 【28～33頁】

感染症対応での関西広域連合の主な役割である、①情報共有と連携、②情報発信、③実施体制、の各項目について、外部専門家や構成府県市の意見を踏まえ、【課題】【成果】【今後の方向性】を整理

検証結果(主なもの)

【課題】

- ◆ 専門的な情報・知見を共有する場の不足
- ◆ 医療資器材等の分散備蓄体制・国内供給体制の強化
- ◆ 専門人材の育成と組織的運用
- ◆ 社会混乱を招く誤った情報への対処
- ◆ 感染動向を踏まえた迅速な対策本部等の設置

【成果】

- ◆ 平時からの顔の見える関係による円滑な連携の実現
- ◆ 府県域を越えた相互応援体制の構築
- ◆ 統一メッセージの発信による一元的な情報発信
- ◆ 関西が一丸となった国要望による制度改正の実現
- ◆ 経済界との連携による物資確保、寄付金の配分

【今後の方向性】

- ◆ 平時からの自治体・専門家間の情報共有体制の強化
- ◆ 地方衛生研究所・保健所・医療機関の相互連携体制の整備
- ◆ 経済界との連携による医療資器材の弾力的な国内供給体制の構築
- ◆ 専門的知見・経験の共有体制構築による人材育成・情報連携
- ◆ 専門家の助言やメディアとの連携を含む情報発信体制強化
- ◆ 対策本部等の設置基準の見直し